

染谷 和博 (51歳)



公明党 新町 4-10-24
会派電話 72-8396

取手市は人口の減少、超高齢化、中心市街地空洞化など様々な課題があります。地域を再生し魅力ある輝きを取り戻すため自助、共助、公助の実現で「支え合う社会」を築いていかなくてはなりません。
安心・安全で住みよい取手にするため全力を尽くしてまいります。

入江 洋一 (53歳)



創世クラブ 新取手 3-42-13
会派電話 74-8429

「やさしさが息づく...。暮らしてみたいあこがれの街とりで」ふるさと取手を愛する気持ちに限りはありません。市民の皆さま一人一人の声を活かし誰もが住んで良かったと言えるような「ベストタウンとりで」を目指し全力投球で頑張つてまいります。

中村 修 (50歳)



はやぶさ 東 5-8-20
会派電話 74-2788

議員としての役割、責任をしっかりと果たし、山積している課題に積極的に取り組み、大変な時代を生き抜かれた先人の教えを大切にし、次世代を担う子供たちに心の豊かさを実感できる、住み続けるほど好きになる街を創るために、市民の皆様と共に汗を流します。

結城 繁 (54歳)



志正会 新町 1-5-28
会派電話 72-0100

3期目に当たり、これまでの経験と実績をいかして民間感覚をもって選挙公約を執行していきたいと考えています。まずは駅前再生です。このエリアから取手市全体のイメージアップを図りたいと思います。また地方分権の時代です。さらなる議会改革に取り組んでいきます。

佐藤 清 (72歳)



はやぶさ 白山 5-3-10
会派電話 74-2306

私は、30年にわたる行政経験を活かして、取手市が抱えている行政課題を幅広く、長期的な視点でとらえ、今、本当に必要なこと、実行しなければならぬことを議会に提案、率先して行動、実行します。

遠山 智恵子 (58歳)



日本共産党 藤代 144-6
会派電話 83-8290

「市民が主人公」をモットーに、引き続き地域要求実現に取り組みます。住民福祉増進を本旨とする地方自治体としての税金の使い方・行政のあり方をただし、取手市議会基本条例スタートにふさわしい活発で市民に開かれた議会・議員活動にがんばる決意です。

吉田 宏 (54歳)



創世クラブ 東 1-2-11
会派電話 72-3275

絆を大切に安心して安全に住める災害に強い、子供達が元気に成長でき安全に学べる教育環境、高齢の方々が元気で安心して暮らせる地域のコミュニティの強化、みんなにやさしくわかりやすい市政等に取り組みんで住みやすい街「取手」を目指し邁進してまいります。

佐藤 隆治 (40歳)



創世クラブ 谷中 69-2
会派電話 83-2324

4人に1人の高齢世代には健康で生きがいのある暮らしを、青・壮年世代には安心できる暮らしを、子育てできる環境を整え「支えあい、人に優しい街」を実現させることが私の政治使命であるとの熱い思いで、これからも責任ある行動をして参ります。

阿部 洋子 (53歳)



公明党 宮和田 433-4
会派電話 82-3488

東日本大震災より1年。取手市民は放射能に対する不安を抱え暮らしており、1日も早い復興、赤ちゃんから高齢者、そして障がいのある無に問わずすべての人の笑顔あふれる暮らしのために、全力で働いて参ります。

平 由子 (65歳)



民主党 戸頭 9-13-20-5
会派電話 78-7458

原発技術可能だからといっていいわけではない。技術の帰結が永遠の負担を持ちうる場合、批判が特に重要。短期的利益を優先した決定は未来世代に負担を残す。選択肢はないという主張は未決定問題を論じる議会制民主主義への信頼を危うくする。―「ドイツ倫理委員会」

赤羽 直一 (64歳)



はやぶさ 山王 200
会派電話 85-8311

取手市は税収が落ち込む中、色々な問題を抱えています。放射能の除染、汚染された土などの保管、取手駅西口の開発、東急ビルの再開、藤代駅北口の整備など、どれも市民の皆様の生活に直結した事柄です。市民の皆様の声が市政に反映されるよう努力致します。

加増 充子 (59歳)



日本共産党 井野 3-18-5
会派電話 74-8154

市民の暮らしと地域経済を大切にしてこそ、元気で魅力のある取手市をつくる事ができると思います。原発事故以来の最優先課題「放射能汚染から子どもと市民を守る対策」と同時に、国保税を引き下げ、市民の健康を守り、安全安心の災害に強い街をめざします。